

## 人間社会研究科

## I 2020年度大学評価委員会の評価結果への対応

## 【2020年度大学評価結果総評】(参考)

人間社会研究科では、修士・博士課程共に学位取得までのロードマップを学生に明示し、研究指導計画書を作成、決定して適切に実施している。正副指導教員をおき、論文発表会を設けて学位取得に至る進捗状況を定期的に点検、指導する体制がとられている。コースワークとリサーチワークの科目群が体系的に編成され、研究交流会の開催や学習成果の測定の取り組みも具体的に行われるなど、専門分野の高度化に対応した教育体制がとられるなど、前年度に高く評価されたことが継続されていることは評価できる。

なお、留学生の就職支援のあり方については課題とされるように、今後の改善に向けて期待したい。また、福祉社会専攻の入学定員の充足化の改善をはかるための具体策の検討や、より充実した教育環境の整備や社会発信にも心がけることにも期待したい。

## 【2020年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】

全体として高い評価をいただいた。今年度は中期目標最終年度として検討と改善に努め、大学評価委員会の期待に応えたい。

## 【2020年度大学評価委員会の評価結果への対応状況の評価】

人間社会研究科は、前年度に高い評価を受けている。その評価を受けて、2021年度は中期目標最終年度として検討と改善に努めるとしており、着実な取り組みを期待したい。

なお、留学生の就職支援のあり方については課題が残っており、今年度はキャリアセンターとの連携のあり方を改めて検討いただきたい。また、福祉社会専攻の入学定員の充足化に向けては具体的な取り組みが進められているが、引き続き検討を進めていただきたい。

## II 自己点検・評価

## 1 教育課程・教育内容

## 【2021年5月時点の点検・評価】

## (1) 点検・評価項目における現状

1.1 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。

①修士課程においてコースワーク、リサーチワークを適切に組み合わせ、教育を行っていませんか。

S  A B

※コースワーク、リサーチワークを組み合わせた教育課程の概要を記入。

コースワークとして(1)専門共通科目(福祉社会専攻)、専門機関科目(臨床心理学専攻)、(2)専門展開科目(両専攻)を設定し、リサーチワークの演習科目(福祉社会専攻)、研究指導科目(臨床心理学専攻)を配置し、適切に組み合わせ、教育課程を体系的に編成している。

## 【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

福祉社会専攻では、市ヶ谷開講と土曜開講で修了に必要なコースワーク(18単位)を取得できるようにし、併せて「地域共生社会特論」、「学術英語」を新設した。初年度としてそれらの成果と課題を検討した。

## 【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・『2021年度大学院要項』
- ・福祉社会専攻会議(要点メモ)

②博士後期課程において授業科目を単位化し、修了要件としてありますか。

はい  いいえ

## 【根拠資料】※「はい」を選択した場合に単位化及び修了要件として設定されていることが確認できる資料を記入。

- ・『2021年度大学院要項』

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

③博士後期課程においてコースワーク、リサーチワークを適切に組み合わせ、教育を行っていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
※コースワーク、リサーチワークを組み合わせさせた教育課程の概要を記入。	
コースワークとして「選択・必修科目」において、福祉系・地域系・臨床心理系の科目を開設し、リサーチワークとして「必修科目」の特別演習を開設し、両者を組み合わせ教育を行っている。	
【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。	
<p>【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>『2021年度大学院要項』</li> </ul>	
④専門分野の高度化に対応した教育内容を提供していますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
※学生に提供されている専門分野の高度化に対応した教育に関し、どのような教育内容が提供されているか概要を記入。	
<p>【修士】</p> <p>各講義及び演習において専門分野の高度化に対応した内容の提供に努めている。</p> <p>福祉社会専攻では、「福祉社会研究法」において研究方法論等についてオムニバス形式で講義し、「地域共生社会特論」において理念と先進的实践についてエキスパートを招聘しつつオムニバス形式で講義し、高度化に対応した内容を提供している。</p> <p>臨床心理学専攻の「臨床心理基礎実習」「臨床心理実習」は複数教員が担当し、高度専門職業人として必要な臨床実践技術の講義や事例研究を行い、専門分野の高度化に対応した内容を提供している。</p>	
<p>【博士】</p> <p>各講義及び演習において専門分野の高度化に対応した内容の提供に努めている。</p>	
【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。	
福祉社会専攻においては、専門分野の高度化に対応するため、2020年度から「地域共生社会特論」と「学術英語」を開設した。	
<p>【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>『2021年度大学院要項』</li> <li>シラバス</li> <li>教授会議事録</li> </ul>	
⑤大学院教育のグローバル化推進のための取り組みをしていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
※大学院教育のグローバル化推進のために行っている取り組みの概要を記入。	
<p>【修士】</p> <p>海外留学への補助金、海外における研究活動補助制度、外国語論文校閲制度などを周知し、利用を促している。福祉社会専攻では、英語専任教員による「原書購読研究」と「学術英語」を開講し、前者においては専門文献の読解を行い、後者では英語での論文作成や投稿に向けたスキルの習得を目指している。</p>	
<p>【博士】</p> <p>海外留学への補助金、海外における研究活動補助制度、外国語論文校閲制度などを周知し、利用を促し、成果をあげている。</p>	
【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。	
「学術英語」を開講し、その成果について検討した。	
<p>【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>シラバス</li> <li>応募・採用状況（研究科長会議資料）</li> <li>福祉社会専攻会議（要点メモ）</li> </ul>	
1.2 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

①学生の履修指導を適切に行っていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
※履修指導の体制及び方法を記入。	
【修士】	
新型コロナウイルス感染拡大防止対策を十分に行いつつ、2021年度新入生のガイダンスを行った。具体的には、修士・博士合同のガイダンスにおいて、教員紹介、研究倫理審査についての解説、学生生活上の諸注意を説明し、各専攻別のガイダンスにおいて、具体的な履修についての指導を行った。	
指導教員が個別に研究テーマに即して履修を指導している。	
1年次1月に副指導教員を定め、指導を個人任せにしていない。	
【博士】	
新型コロナウイルス感染拡大防止対策を十分に行いつつ、2021年度新入生のガイダンスを行った。具体的には、修士・博士合同のガイダンスにおいて、教員紹介、研究倫理審査についての解説、学生生活上の諸注意を説明し、指導教員確定後、指導教員を中心に履修指導を行った。	
指導教員が個別に研究テーマに即して履修を指導している。	
1年次1月に副指導教員を定め、指導を個人任せにしていない。	
【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。	
新型コロナウイルス感染拡大防止対策として、三密を避け、かつ教室にはアクリル板を設置し、十分な換気の実施した。	
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・『2021年度大学院要項』</li> <li>・新入生オリエンテーション・ガイダンスにおける配布資料</li> <li>・研究科教授会資料</li> </ul>	
②研究科（専攻）として研究指導計画を書面で作成し、あらかじめ学生が知ることのできる状態にしていますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい いいえ
※ここでいう「研究指導計画」とは、事務手続きのスケジュールやシラバス等の個別教員の指導計画を指すのではなく、研究科としての研究指導体制及び研究指導スケジュールをまとめたものを指します（学位取得までのロードマップの明示等）。また、「あらかじめ学生が知ることの状態」とは、HPや要項への掲載、ガイダンスでの配布等が考えられます。	
【修士】	
学位取得までのロードマップについては、「論文指導と研究倫理のスケジュール」を『大学院要項』に掲載し、明示している。	
研究指導計画については、両専攻の「研究指導計画」を『大学院要項』に掲載し、明示している。	
【博士】	
学位取得までのロードマップについては、「論文指導と研究倫理のスケジュール」を『大学院要項』に掲載し、明示している。	
研究指導計画については、「研究指導計画」を『大学院要項』に掲載し、明示している。	
【根拠資料】※研究指導計画が掲載された文書・冊子等の名称を記入。	
・『2021年度大学院要項』	
③研究指導計画に基づく研究指導、学位論文指導を行っていますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい いいえ
※組織的な研究指導、学位論文指導の概要を記入。	
【修士】	
研究科教授会において、論文構想検討、論文構想発表、中間報告、予備登録、論文提出、論文審査、論文発表、研究倫理審査などの研究指導計画を決定し、研究科教授会として適切に実施している。	
【博士】	
研究科教授会において、各年次の研究発表と研究成果報告、予備登録、論文提出、論文審査、論文発表、研究倫理審査などの研究指導計画を決定し、研究科教授会として適切に実施している	
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

・『2021 年度大学院要項』	
④通常の教育課程や教育方法に加え、COVID-19 への対応・対策として、教育内容、教育方法、成績評価等の一連の教育活動において工夫を講じていますか。行っている場合はその内容と教育活動の効果について教えてください。	
※取り組みの概要を記入。	
人への支援に関わる研究に重点を置く当研究科では、COVID-19 感染対策としての人との接触の制限によって多大な影響を受けることとなった。そうした中、2020 年度は対面とオンラインを組み合わせ、対応してきた。 2021 年度はより有効な方法・工夫について検討する。	
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。	
・学習支援システム、WEB 掲示板	
1.3 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	
①成績評価と単位認定の適切性を確認していますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
※成績評価と単位認定の確認体制及び方法を記入。	
【修士】 成績評価基準・単位認定基準を『大学院要項』に掲載、明示したうえで、適切に運用している。 修士論文の評価については、発表会を行い、適切性を確認している。 福祉社会専攻では「修士論文評価報告書」を正副指導教員が作成し、成績評価の適切性を確認している。	
【博士】 成績評価基準・単位認定基準を『大学院要項』に掲載、明示したうえで、適切に運用している。 年度末に「研究成果報告書」を提出させ、正副指導教員は研究の進捗と研究成果を検討し、所見を加えた報告書を研究科教授会へ提出し、研究の進展状況を研究科教授会として確認している。	
【2020 年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。	
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。	
・『2021 年度大学院要項』 ・「修士論文評価報告書」 ・研究科教授会資料	
②学位論文審査基準を明らかにし、あらかじめ学生が知ることのできる状態にしていますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
※学位論文審査基準の名称及び明示方法を記入。	
【修士】 2011 年に両専攻の学位論文審査基準を制定し、2013 年、2018 年、2019 年の一部改正を経て運用している。 学位論文審査基準は『大学院紀要』に掲載し、明示している。	
【博士】 2011 年に学位論文審査基準を制定し、2013 年、2018 年、2019 年の一部改正を経て運用している。 学位論文審査基準は『大学院紀要』に掲載し、明示している。	
【根拠資料】※学位論文審査基準にあたる文書の名称を記入。また、冊子等に掲載し公表している場合にはその名称を記入。	
・『2021 年度大学院要項』	
③学位授与状況（学位授与者数・学位授与率・学位取得までの年限等）を把握していますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
※データの把握主体・把握方法、データの種類等を記入。	
「修了年次管理表」を作成し、学位授与者数、学位授与率、学位取得までの年数などを把握している。	
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。	
・「修了年次管理表」	
④学位の水準を保つための取り組みを行っていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
※取り組みの概要を記入。	

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

<b>【修士】</b>	
専攻ごと、年度中盤に実施する論文構想発表会、年度末に実施する論文発表会には、全教員の出席を求め、質疑応答・意見交換を活発に行っている。これにより、研究科として学位論文の水準の向上と水準の検証に努めている。	
<b>【博士】</b>	
6月に実施する博士論文年次研究発表会、年度末の博士論文発表会には、全教員の出席を求め、質疑応答・意見交換を活発に行っている。これにより、研究科として学位論文の水準の向上と水準の検証に努めている。	
<b>【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】</b> ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。	
<b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。	
・『2021年度大学院要項』（12～16ページ）	
⑤学位授与に係る責任体制及び手続を明らかにし、適切な学位の授与が行われていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
※責任体制及び手続等の概要を記入。ただし、博士については、学位規則のとおりに行われている場合には概要の記入は不要とし、「学位規則のとおり」と記入。	
<b>【修士】</b>	
・責任体制の明確化	
4月の研究科教授会において、オリエンテーション後に提出された「指導希望教員届」に基づいて指導教員を決定し、翌年1月の研究科教授会において福指導教員を決定している。	
・手続きの明確化	
両専攻とも修士論文構想発表会と修士論文提出後の口頭試問を行っている。	
福祉社会専攻では、加えて、修士論文構想検討会を行い、構想発表会に備えている。	
・適切性の確認	
両専攻とも修士論文発表会を行い、福祉社会専攻では「修士論文評価報告書」を正副指導教員が作成し、研究科教授会で成績評価と合わせて学位授与の適切性を確認している。臨床心理学専攻では専攻会議において全教員で成績評価を行ったうえで、研究科教授会で学位授与を判定し、適切性を確認している。	
<b>【博士】</b>	
・責任体制の明確化	
4月の研究科教授会において、オリエンテーション後に提出された「指導教員承認届」に基づいて指導教員を決定し、翌年1月の研究科教授会において福指導教員を決定している。	
・手続きの明確化	
博士論文年次研究発表会を行い、年次ごとの進捗状況を研究科として確認している。	
論文受理審査（1次、2次：複数名の委員が担当）に合格した論文については、学外の委員を含む複数名で構成される博士論文審査委員会で審査（口述試験を含む）を行い、研究科教授会で合否を決定している。	
・適切性の確認	
合格した博士論文については、博士論文発表会（公開）を行い、学位授与の適切性を確認している。	
<b>【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】</b> ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。	
<b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。	
・『2021年度大学院要項』	
・研究科教授会資料	
⑥学生の就職・進学状況を研究科（専攻）単位で把握していますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
※データの把握主体・把握方法、データの種類等を記入。	
「修了年次管理表」を作成し、学生の就職・進学状況を把握している。	
<b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。	
・「修了年次管理表」	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

1.4 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	
①分野の特性に応じた学習成果を測定するための指標の適切な設定または取り組みが行われていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
※取り組みの概要を記入。	
<p><b>【修士】</b>          福祉社会専攻では、分野の特性に応じた学習成果を測定するための指標として、「修士論文評価報告書」において、Ⅰ問題意識と研究テーマ、Ⅱ先行研究の検討と独自性、Ⅲ研究方法、Ⅳ結果の分析と考察、Ⅴ論文の記述の5指標を設定し、総合的に評価している。</p> <p>臨床心理学専攻では、分野の特性に応じた学習成果を測定するために、臨床心理士、および公認心理師の資格取得率を確認している。</p>	
<p><b>【博士】</b>          分野の特性に応じた学習成果を測定するための指標として、「研究成果報告書」から、学会発表の回数及び講評論文の本数を把握している。</p>	
<p><b>【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】</b> ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p>	
<p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「修士論文評価報告書」</li> <li>・博士課程「研究成果報告書」</li> </ul>	
②具体的な学習成果を把握・評価するための方法を導入または取り組みが行われていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
※取り組みの概要を記入。取り組み例：アセスメント・テスト、ルーブリックを活用した測定、学習成果の測定を目的とした学生調査、卒業生・就職先への意見聴取、習熟度達成テストや大学評価卒業生アンケートの活用状況等。	
<p><b>【修士】</b>          福祉社会専攻では、「修士論文評価報告書」を正副指導教員が作成し、研究科教授会で、具体的な学習成果の把握・評価のための議論を行っている。</p> <p>臨床心理学専攻では、臨床心理士の資格取得率が100%、公認心理師の資格取得率（受験資格保有者に対し）が100%に達しており、十分な成果をあげていることを把握している。</p>	
<p><b>【博士】</b>          「研究成果報告書」の提出を義務付けており、それに正副指導教員のコメントを追記したものを教授会で検討している。</p>	
<p><b>【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】</b> ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p>	
<p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究科教授会資料</li> <li>・議事録</li> </ul>	
1.5 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	
①学習成果を定期的に検証し、その結果をもとに教育課程及びその内容、方法の改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
※検証体制及び方法、改善・向上に向けた取り組みの概要を記入。	
<p><b>【修士】</b>          福祉社会専攻では、専門共通科目や研究基盤科目の講義について、年度末に専攻会議を開いて、学習成果を検証し、講義の内容や方法の改善・向上に取り組んでいる。</p> <p>臨床心理学専攻では、専攻会議を毎週開催し、専門共通科目や資格取得に必要な実習などの内容を確認すると共に、学習成果を検証し、改善方法を検討している。</p>	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

<b>【博士】</b>	
博士論文年次研究発表会及び博士論文発表会での発表や質疑応答をもとに、研究科教授会として学習成果を検証し、教育課程及びその内容、方法の適切性について点検・評価を行っている。	
<b>【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】</b> ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。	
<b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。	
<ul style="list-style-type: none"> <li>『2021年度大学院要項』</li> <li>福祉専攻会議（要点メモ）</li> <li>研究科教授会議事録</li> </ul>	
②学生による授業改善アンケート結果を組織的に利用していますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
※取り組みの概要を記入。	
教務委員会において授業アンケート結果を点検している。 個別の対応が必要な場合は、執行部が対応している。	
<b>【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】</b> ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。	
<b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。	
<ul style="list-style-type: none"> <li>教授会議事録</li> </ul>	

## (2) 長所・特色

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、取り組み内容から「長所」や「特色」として特記すべき事項を記入。なお、現在「長所」や「特色」として特記すべき事項がなかった場合は、今後さらに「長所」や「特色」とする取り組み等を向上させていくために課題と考えられる点やその対応計画を記入していただく等できる限り記入をしてください。

内容	点検・評価項目
<ul style="list-style-type: none"> <li>修士・博士課程ともに学位取得までのロードマップを策定し、学生には段階を追って研究報告会での報告や成果報告書の提出を義務付け、専攻・研究科として研究の進展を図っている。</li> </ul>	

## (3) 問題点・課題

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、改善を要すると判断される「問題点」として特記すべき事項を記入。なお、「問題点」に対する改善計画がある場合には、その具体的な計画（既に実施している場合にはその進捗状況も含めて）をあわせて記入してください。「問題点」を認識し改善につなげるためにできる限り記入をしてください。

内容	点検・評価項目
<ul style="list-style-type: none"> <li>修士課程においては順調に論文提出・修了が進んでいるが、博士課程では在籍期間・休学が長期化する状況も生じてきた。今年度は休学明けのものへの方針を共有しつつ研究指導にあたるようにする。</li> </ul>	

## 【この基準の大学評価】

人間社会研究科では、修士課程・博士課程ともにコースワークとリサーチワークを適切に組み合わせた教育課程が体系的に編成されている。修士論文指導・博士論文指導のいずれにおいても副指導教員を定めており、指導を個人任せにしないことも評価できる。修士、博士ともに学位取得までのロードマップや研究指導計画が学生に明示されており、修士課程の年度中盤に論文構想発表会を実施するなど、段階的かつ集団的な指導体制が整えられていることも評価できる。インタビューによると、2021年度は、前年度実施できなかったガイダンスも対面で実施された。

福祉社会専攻では修士論文評価報告書を正副指導教員が作成しており、学位授与の適切性の確認が丁寧に行われてい

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

る。また、修士1年生対象の論文構想検討会において、ほぼ全員の出席のもと早い段階からアドバイスを与え、院生相互でもお互いの刺激となる機会がつけられている。臨床心理学専攻では、臨床心理士の資格取得率が100%、公認心理師の資格取得率が受験資格保有者に対して100%に達しており、十分な成果を上げていることが確認されている。

また、福祉社会専攻では社会人学生への対応として市ヶ谷開講と土曜開講で修了に必要なコースワークを取得できるように改訂が行われ、さらに専門分野の高度化への対応として「地域社会共生社会特論」および「学術英語」を開設するなど、新たな取り組みが2020年度より始められている。英語でのアブストラクト執筆指導、留学生への日本語指導なども含め、今後は手厚い取り組みの拡充と、その成果と課題の検証を着実に進めていただきたい。

## 2 教員・教員組織

### 【2021年5月時点の点検・評価】

#### (1) 点検・評価項目における現状

2.1 教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。	
①研究科（専攻）独自のFD活動は適切に行われていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<b>【FD活動を行うための体制】</b> ※箇条書きで記入。 学部と共同し、FD活動として、Well-being研究会を開催している。 授業改善アンケートを各教員が資質向上のために活用している。 授業改善アンケートの結果を研究科教務委員会が検討し、必要な対応を行っている。 <b>【2020年度のFD活動の実績（開催日、場所、テーマ、内容（概要）、参加人数等）】</b> ※箇条書きで記入。 ・ Well-being研究会 <b>【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】</b> ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。 <b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。 ・	
②研究活動や社会貢献等の諸活動の活性化や資質向上を図るための方策を講じていますか。	S A <input checked="" type="checkbox"/> B
※取り組みの概要を記入。 多摩共生社会研究所との共催の研究会と、専攻を越えた研究交流のための研究交流会について実施に向けて検討を進めたが、どちらもコロナ禍において開催できなかった。 2021年度にはこれらの具体化を図る。 <b>【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】</b> ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。 <b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。 ・ 教務委員会資料	
③組織編制やFD等に関して、COVID-19への対応・対策を行っていますか。行っている場合は、その内容を教えてください。	
※取り組みの概要を記入 感染対策を充分にとりながら、Well-being研究会を開催した。 <b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入 ・	

#### (2) 長所・特色

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、取り組み内容から「長所」や「特色」として特記すべき事項を記入。なお、現在「長所」や「特色」として特記すべき事項がなかった場合は、今後さらに「長所」や「特色」とする取り組み等を向上させていくために課題と考えられる点やその対応計画を記入していただく等できる限り記入をしてください。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。



内容	点検・評価項目
・専攻ごとに会議を定期的開催している。	

### (3) 問題点・課題

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、改善を要すると判断される「問題点」として特記すべき事項を記入。なお、「問題点」に対する改善計画がある場合には、その具体的な計画（既に実施している場合にはその進捗状況も含めて）をあわせて記入してください。「問題点」を認識し改善につなげるためにできる限り記入をしてください。

内容	点検・評価項目
・専攻をまたがった課題について、教務委員の中で担当を分担し、検討を進めることとしている。	

### 【この基準の大学評価】

人間社会研究科では、学部と共同し、FD活動として Well-being 研究会を開催している。授業改善アンケートの結果も各教員が資質向上のために活用していることに加え、教務委員会で点検のうえ、問題がある場合に自由記述ができるようにするなど、必要な対応を行っている。

多摩共生社会研究所との共催の研究会および、専攻を越えた研究交流のための研究交流会については、コロナ禍において開催ができなかったとのことだが、インタビューによると、越境的な交流の場による難しさもあるとは言え有意義な機会だと思われるので、オンラインでの開催も視野に入れながら、工夫して開催することを期待したい。

## 3 その他の基準の COVID-19 への対応

### 【2021年5月時点の点検・評価】

#### (1) 点検・評価項目における現状

3.1 その他、学生支援や学生の学習環境や教員の教育環境整備、社会貢献における COVID-19 対応・対策を行っているか。
①その他、研究科として学生支援や学生の学習環境や教員の教育研究の環境整備、社会貢献等における COVID-19 への対応・対策を行っていますか。行っている場合は、その内容を教えてください。
※取り組みの概要を記入
<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康チェックシートの導入・徹底</li> <li>・修士・博士課程の発表会について、期日の調整を行うと共に、対面とオンラインの併用など、開催方法について工夫した。</li> <li>・研究倫理審査申請に際し、コロナ禍における対応として、オンラインの導入や、研究対象者への感染リスク軽減のための配慮などを求め、具体的な手順を記載することとした。</li> </ul>
【根拠資料】
・学習支援システム、WEB 掲示板

### 【この基準の大学評価】

人間社会研究科は、修士・博士課程の発表会について、期日の調整を行うと共に、対面とオンラインの併用など、開催方法について工夫が行われた。

研究倫理審査申請に際し、コロナ禍における対応として、オンラインの導入や、研究対象者への感染リスク軽減のための配慮などを求め、具体的な手順を記載することとしたことは、人への支援に関わる研究に重点を置く人間社会研究科として評価される対応であった。インタビューによると、コロナ禍のもとで、オンラインを余儀なくされたインタビューデータの保護についても検討作業が行われている。

## III 2020年度中期目標・年度目標達成状況報告書

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

No	評価基準	理念・目的	
1	中期目標	研究科設立時の理念と目的を共有しながら、常に時代の趨勢との適合性について検証を行う。	
	年度目標	時代の趨勢と、本研究科での教育に求められる課題について確認する。	
	達成指標	研究科教務委員会において、時代の趨勢に対応すべき課題を協議し、整理する。	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	A
		理由	本年度は、コロナ感染拡大防止の観点から、キャンパス入構制限のある中で、講義や論文指導、諸発表会、入試など、適宜オンラインか対面か検討し、両者を組み合わせて実施してきた。それによって研究科として、理念に沿った教育や研究指導ができた。修論、博論の成果につながったと考えられる。
		改善策	本研究科創設の理念もふまえ、ポスト・コロナ、with・コロナでの、大学院教育、研究者養成について、継続的に議論をすすめていく。
		質保証委員会による点検・評価	
所見		ほぼ達成した。 新型コロナウイルスが流行する中でも、研究科としての理念に沿った教育を何とか保つための議論・工夫をしている。	
改善のための提言	昨今の社会情勢の変化にどのように対応すべきかという点から、本研究科の理念や目的の意義を検証をおこなう必要があるのではないか。		
No	評価基準	内部質保証	
2	中期目標	質保証委員会と研究科執行部のコミュニケーションを通じて、PDCA サイクルで研究科運営の効率性を高める。	
	年度目標	質保証委員会と研究科執行部のコミュニケーションを密にする。	
	達成指標	年度当初（自己点検評価と目標作成時点）、中間（事業遂行時点）、年度末（年度目標達成確認時点）の三段階で、内部質保証委員会と研究科執行部との情報交換を行う。	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	B
		理由	本年度当初と年度末の2段階での情報交換となった
		改善策	質保証委員会と研究科執行部とのコミュニケーションを密にし、中間（事業遂行時点）での意見交換のあり方・必要性を検討する。
		質保証委員会による点検・評価	
所見		ほぼ達成したが、十分とは言えない。中間時の情報交換がなされていない。	
改善のための提言	中間時の意見交換の必要性を検討する。		
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】	
3	中期目標	常に時代の趨勢との適合性について検証を行い、国際化や地域間格差等に対応した教育と高度専門職業人養成のためのキャリア教育の提供のあり方について検討し改編する。	
	年度目標	福祉社会専攻では新設した専門共通科目、専門展開科目も含めて、専門分野の高度化に対応した教育内容、体系的な教育課程となっているか検討する。臨床心理学専攻は、公認心理師指定科目を含んだカリキュラムの効果と課題を検証する。	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

	達成指標	福祉社会専攻では、専門共通科目、専門展開科目のシラバスを検証するとともに、休講にしている「生活問題特講」と「ケアマネジメント特論」の取り扱いを検討する。臨床心理学専攻は、左記の検証の場を持つ。
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	福祉社会専攻では専門共通及び専門展開科目の適切な教育課程について意見交換をおこなった。臨床心理学専攻では、授業期間中ほぼ毎週行っている専攻会議で、コロナ禍における教育方法、また修論に向けての研究方法について検討を行った。
	改善策	福祉社会専攻では、「ケアマネジメント特論」や専門展開科目「福祉社会データ解析」について、引き続き検討を行う必要がある。臨床心理学専攻では、オンラインも含めたさまざまな教育方法も含め、カリキュラム全体の構成をさらに検討していく。
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	ほぼ達成した。 両専攻とも、教育内容について、継続的に検討を行っている。
	改善のための提言	引き続き検討を行ってほしい。
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】
4	中期目標	研究科全体では、少人数授業で効果的な教育方法を推進する。福祉社会専攻では、社会人学生や入学者数に相応しい専門展開科目の授業数や時間割について検証し、改編する。
	年度目標	福祉社会専攻は、市ヶ谷開講科目を増やし時間割を見直したことによる教育課程・学習成果から教育方法について検討する。臨床心理学専攻では、心理実践実習（公認心理師指定科目）における実習教育の適切な実施について検討する。
	達成指標	福祉専攻では、学部のカリキュラム改革と連動して、2021年度の市ヶ谷開講科目・時間割を確定する。心理実践実習については臨床心理学専攻会議で実習教育の適切な進め方を議論する。
	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	福祉社会専攻では、市ヶ谷・土曜日開講科目の時間割などの方針を再度確定した。本年度から開講した「地域共生社会特論」「学術英語」などの授業内容、成果や課題について情報共有し教育方法について意見交換した。臨床心理学専攻では、コロナ禍における心理実践実習（公認心理師指定科目）における実習教育の確保に向けて、実習機関と密に連携し、専攻会議で継続的に検討・共有を行った。
	改善策	2021年度に時間割の確定や「地域共生社会特論」「学術英語」などフォローアップならびに「福祉社会研究法」の教育方法や成果についても検討する必要がある。臨床心理学専攻では、心理実践実習の実習先をさらに確保すると共に、実習先の指導者との連携を密にすること、また臨床心理相談室の充実を図り、実習教育の質の向上を検討する。
質保証委員会による点検・評価		
所見	ほぼ達成した。 両専攻とも、教育方法について、継続的に検討を行っている。今年は、オンライン授業の効果についても検討を行っている。	
改善のための提言	引き続き検討を行ってほしい。	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

No	評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】	
5	中期目標	学生の個別的な状況に配慮しつつ、学位基準に達するための適切な教育・研究指導を研究科全体で実施する。	
	年度目標	福祉社会専攻では、論文指導を早期に進めるために修士論文構想検討会（M1）を春学期に実施することや修士論文の学位取得基準の明確化のために修士論文評価報告書の定着に努める。臨床心理学専攻では修士論文の研究成果と、心理実践実習など臨床教育の成果との相乗効果と課題を検討する。人間福祉専攻では、博士論文年次研究発表会と1年間の研究成果である「研究成果報告書」をもとに、研究科全体で研究指導体制を定着させる。	
	達成指標	福祉社会専攻では、春学期に開催の修士論文構想発表会（M1）において論文指導指導プロセスへの効果を審議する。臨床心理学専攻では、左記の相乗効果に関する検討の場を持つ。人間福祉専攻では、博士論文年次研究発表会を開催するとともに、「研究成果報告書」への指導教員、副指導教員からの講評をもとに、研究科全体で、学位基準に達する研究指導の充実に向けて検討の場を持つ。	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	A
		理由	福祉社会専攻では、修士論文中間発表会（6月M2）を企画したが、コロナ感染予防から開催せずM2院生から提出された「修士論文中間報告書」をもとに専攻教員全員による修論指導を行った。また修士論文評価報告書にもとづき成績評価について共有した。臨床心理学専攻では、修士論文発表会を中心に、研究成果と臨床教育の成果の相乗効果を確認した。人間福祉専攻では、博士論文年次発表会をオンラインにて開催し、研究内容について検討した。
		改善策	福祉社会専攻では、修士中間報告会（M2）、修士論文構想検討会（M1）、修論構想発表会（M1）による修論指導プロセス、学位水準を保つ指導体制や手続きを確実にする。臨床心理学専攻では、修士論文構想発表会（M1）から修士論文発表会（M2）への成果の達成度を専攻会議等で検討・確認する。人間福祉専攻では、博士論文年次発表会を通して、研究の進捗状況・内容について確認する。
		質保証委員会による点検・評価	
		所見	ほぼ達成した。 新型コロナウイルス感染拡大により、一部対面で指導できないこともあったが、適切な代替措置が実施された。
		改善のための提言	引き続き発表会等を実施いただきたい。
No	評価基準	学生の受け入れ	
6	中期目標	修士課程において学部卒業生、社会人、留学生等のバランスの良い入学者の確保を図り、研究科全体の入学定員充足率を高い水準で保つ。	
	年度目標	福祉社会専攻では社会人入学生増加のため市ヶ谷開講科目数の増やし時間割を確定したこととの関連で検討する。臨床心理学専攻では、従来通りの入学者数を確保するための方策、人間福祉専攻では入学者の安定的な定員充足についてそれぞれ検討する。	
	達成指標	福祉社会専攻では2020年度入学者には成果が得られていないので、引き続きバランスのよい入学者確保について検討する。臨床心理学専攻及び人間福祉専攻では、左記について各専攻会議/懇談会で検討する。その上で教務委員会、研究科教授会で議論する。	
	年度末	教授会執行部による点検・評価	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

	報告	自己評価	A	
		理由	福祉社会専攻は、社会人学生受け入れのため、市ヶ谷・土曜日開講科目の定着を計った。臨床心理学専攻では、入学者を確保するための方策や合格者の査定について検討した。人間福祉専攻では、入学者の安定的な定員充足に向けて、本研究科修士課程修士生ならびに研究生への指導体制について意見交換した。	
		改善策	福祉社会専攻では入学者の増加、社会人確保に向けて、学部と大学院の連動、修了後のキャリア支援なども検討し入学者の確保を図る必要がある。臨床心理学専攻では、微減傾向にある志願者数を確保する方策について専攻会議等で検討する。人間福祉専攻の入学者の大半が社会人となっているため、学部・修士・博士の連動や今後の研究活動支援や学位取得への適切な研究指導を行うなどの検討が必要である。	
		質保証委員会による点検・評価		
		所見	ほぼ達成した。 福祉社会専攻は定員を満たしていないが、入学者確保のための方策を検討している。	
		改善のための提言	引き続き検討を行ってほしい。	
	No	評価基準	教員・教員組織	
7	中期目標	教育理念・目的に合致するような専門分野の教員を配置し、かつ研究科の持続的な発展を目指した年齢構成を維持する。		
	年度目標	専任教員について専門分野の教育・指導を行う教員組織の充実を検討する。		
	達成指標	人間福祉専攻の教育・指導を担当できる専任教員組織の配置をめざす。		
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価		
		自己評価	A	
		理由	大学院講義担当、論文指導体制について内規を整備し明確化した。福祉社会専攻では大学院を担当できる教員を新規採用した。	
		改善策	-	
質保証委員会による点検・評価				
所見	達成した。教員を採用した。			
改善のための提言	-			
No	評価基準	学生支援		
8	中期目標	外国人留学生の教育・研究ならびに就職に関する支援をより一層充実させる。		
	年度目標	外国人留学生対象とする現在のチューター制度、「チューター日本語相談室」などの利用状況を把握し、教育や研究へどのように成果をあげているか検討する。また就職に関してはキャリアセンターの支援を受けるよう指導する。		
	達成指標	外国人留学生へ、チューター制度やチューター日本語相談室の利用状況などのヒアリングを行う。就職についてはキャリアセンターの支援を受けているのかについて確認する。		
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価		
		自己評価	B	
		理由	外国人留学生へ、チューター制度、就職活動に関して、オンラインと対面でヒアリング調査を行った。キャリアセンターとの情報交換は実施できなかった。	
		改善策	外国人留学生のキャリア支援について、キャリアセンターとの連携や情報交換のありかたを検討する。	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

		質保証委員会による点検・評価		
	所見	ほぼ達成したが、十分とは言えない。昨年度も今年度もキャリアセンターとの情報交換が行えていない。		
	改善のための提言	キャリア支援の充実を行うべきである。		
No	評価基準	社会連携・社会貢献		
9	中期目標	修了生がどのように社会と接点を持ち、貢献しているのかを常に確認するとともに、研究科が地域社会と連携し、貢献するための方策を検討し実践する。		
	年度目標	各専攻ともに、修了生どうしが情報交換し各分野の研鑽を積む場を提供する。これまで同様、学内多摩共生社会研究所等との共催で公開研究会を開催する。人間社会研究科の研究交流促進を進めるための「研究交流会」の内容や方策を検討する。		
	達成指標	専攻を超えた研究交流や研究促進のための「研究交流会」を企画し実施に向けて具体的に検討する。なお、臨床心理学専攻では、修了生と在学生による臨床心理の会を継続発展させ、年次大会の内容のさらなる充実を通して専門性の維持をはかる。		
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価		
		自己評価	B	
		理由	本年度は、研究交流会の企画について議論を行ったが、テーマ選択がまとまらず、コロナ禍における教育の在り方などについては、各専門分野において検討する準備期間も必要との結論に達し実現には至らなかった。	
		改善策	人間社会研究科全体の 研究交流促進を進めるための「研究交流会」について早い段階からテーマを企画し、準備に向けて検討する必要がある。	
質保証委員会による点検・評価				
所見	達成が不十分である。新型コロナウイルス感染拡大という状況でやむを得ないが研究交流会が開催できなかった。			
改善のための提言	研究交流会の実施を行ってほしい。			
【重点目標】				
2020年度春学期では新型コロナウイルス肺炎感染拡大防止によるキャンパス入校禁止およびオンライン学習による学生生活・授業および研究指導・院生の研究環境への与えた問題を整理し、その対応に取り組む。福祉社会専攻では、効果的な教育方法や論文指導体制を検討する。臨床心理専攻では、心理実習（公認心理師指定科目）における実習教育の適切な実態について検討する。修士・博士ともに、研究科全体で学位基準に達する研究指導体制を定着させる。				
【目標を達成するための施策等】				
福祉専攻では新設科目や市ヶ谷開校科目・時間割のフォローアップ、修士論文研究指導体制について検討する。心理実践実習については臨床心理学専攻会議で実習教育の適切な進め方を議論する。研究科全体では、修士論文構想発表会などの論文指導指導プロセスへの効果を検討すること、博士論文年次研究発表会を開催や1年間の「研究成果報告書」への講評をもとに、学位基準に達する研究指導に関する検討の場を持つ。				
【年度目標達成状況総括】				
人間社会研究科全体では、新型コロナウイルス感染拡大防止から、新年度当初の新入生オリエンテーションが実施できなかったため、本研究科の教育目的・理念、教育方針・研究指導体制への説明が不十分となった。しかし、講義や論文指導、諸発表会など、適宜オンラインか対面か検討し、両者を組み合わせて実施してきた。それによって研究科として、理念に沿った教育や研究指導ができ、修論・博論の成果につながった。また、博士論文年次研究発表会の開催や1年間の「研究成果報告書」への講評をもとに、学位基準に達する研究指導に関する検討の場を持つこともできた。福祉社会専攻				

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

では、福祉社会専攻会議をオンラインで開催し新設科目や市ヶ谷開校科目・時間割のフォローアップ、修士論文研究指導体制について検討することができた。臨床心理学専攻では、新型コロナウイルス感染拡大防止措置による実習停止が相次いだ。実習機関を増やすことによって実習時間および質を確保することが出来た。また研究倫理を充実させること、個人情報管理の厳格化のために、研究倫理審査申請書類の整備を行った。本年度は、研究交流会の企画について議論を行ったが、テーマ選択がまとまらず実現には至らなかった。今後は、研究科全体での研究交流や研究促進のための「研究交流会」を早い段階から企画し実施に向けて具体的に検討することが課題である。

#### 【2020年度目標の達成状況に関する大学評価】

人間社会研究科の2020年度目標の達成状況は、ほぼ適切である。福祉社会専攻では大学院を担当できる教員の新規採用がおこなわれ、指導体制の充実が期待できる。

臨床心理学専攻では、コロナ禍における心理実践実習の実習先確保の努力が引き続き必要であると考えられ、実習機関との密度の高い連携をさらに期待したい。

内部質保証の取り組みにおいては、9月に実施予定の年度の間段階での意見交換のあり方を改めて検討いただきたい。

福祉社会専攻における入学者の確保に向けた対策、外国人留学生への就職支援の充実、研究交流会の実施については、引き続き努力を求めたい。インタビューによると、多摩キャリアセンターと連携して留学生に対する就職支援も検討されているとのことなので、今後の充実に期待したい。

#### IV 2021年度中期目標・年度目標

No	評価基準	理念・目的
1	中期目標	研究科設立時の理念と目的を共有しながら、常に時代の趨勢との適合性について検証を行う。
	年度目標	中期目標達成に向けた最終年度として、研究科の理念と目的に沿って、この間の成果と課題を検証する。
	達成指標	論点ごとに教務委員会で検証を進め、それをもとに研究科としてまとめを行う。
No	評価基準	内部質保証
2	中期目標	質保証委員会と研究科執行部のコミュニケーションを通じて、PDCAサイクルで研究科運営の効率性を高める。
	年度目標	質保証委員会と研究科執行部のコミュニケーションを密にする。
	達成指標	年度当初（自己点検評価と目標作成時点）、中間（事業遂行時点）、年度末（年度末目標達成確認時点）の三段階で、内部質保証委員会と研究科執行部との情報交換を行う。
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】
3	中期目標	常に時代の趨勢との適合性について検証を行い、国際化や地域間格差等に対応した教育と高度専門職業人養成のためのキャリア教育の提供のあり方について検討し改編する。
	年度目標	福祉社会専攻ではカリキュラム改革の効果と課題を検討する。 臨床心理学専攻においては、公認心理師指定科目を含んだカリキュラムの効果と課題を検証する。
	達成指標	福祉社会専攻ではカリキュラム改革の効果と課題について、専攻会議において議論する。 臨床心理学専攻においては、公認心理師指定科目を含んだカリキュラムの効果と課題について専攻会議で議論する。両専攻の議論のまとめを、教授会で確認する。
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】
4	中期目標	研究科全体では、少人数授業で効果的な教育方法を推進する。福祉社会専攻では、社会人学生や入学者数に相応しい専門展開科目の授業数や時間割について検証し、改編する。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

	年度目標	コロナ対応のもとでの、相応しい教育方法について検討する。障害のある学生への対応方法を検討し、実施する。福祉社会専攻では夜間・土曜開講やオムニバス形式の開講について学習成果を検証する。臨床心理学専攻では、心理実践実習（公認心理師指定科目）について適切な進め方を検討する。
	達成指標	コロナ対応の教育方法の検証の場を持つ。障害のある学生へ必要かつ適切な配慮を行う。福祉社会専攻では夜間・土曜開講やオムニバス形式の開講について専攻会議で議論する。臨床心理学専攻では、心理実践実習（公認心理師指定科目）について、専攻会議で実習教育の適切な進め方を議論する。
No	評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
5	中期目標	学生の個別的な状況に配慮しつつ、学位基準に達するための適切な教育・研究指導を研究科全体で実施する。
	年度目標	各専攻での諸発表会や報告の定着を図る。人間福祉専攻では、それに加え、1年間の研究成果である「研究成果報告書」をもとに、研究科全体で研究指導體制を定着させる。また、休学明け院生への研究指導を丁寧に行う。
	達成指標	各専攻での諸発表会や報告の実施。人間福祉専攻では、それに加え、「研究成果報告書」への指導教員・副指導教員からの講評をもとに、研究科全体で学位基準に達する研究指導の充実に向けて検討の場を持つ。また、休学明け院生への指導方針を確認する。
No	評価基準	学生の受け入れ
6	中期目標	修士課程において学部卒業生、社会人、留学生等のバランスの良い入学者の確保を図り、研究科全体の入学定員充足率を高い水準で保つ。
	年度目標	福祉社会専攻では、社会人向け開講形態の改善による効果や課題を検証する。 臨床心理学専攻では、従来通りの入学者数を確保するための方策について検討する
	達成指標	福祉社会専攻では、社会人向け開講形態の改善による効果や課題について、専攻会議で議論する。臨床心理学専攻では、従来通りの入学者数を確保するための方策について専攻会議で議論する。
No	評価基準	教員・教員組織
7	中期目標	教育理念・目的に合致するような専門分野の教員を配置し、かつ研究科の持続的な発展を目指した年齢構成を維持する。
	年度目標	専任教員について専門分野の教育・指導を行う教員組織の充実を検討する。
	達成指標	人間福祉専攻の論文指導を担当できる教員の任用を行う。
No	評価基準	学生支援
8	中期目標	外国人留学生の教育・研究ならびに就職に関する支援をより一層充実させる。
	年度目標	留学生への進路指導の改善について検討する。
	達成指標	留学生の進路状況の検証を行い、対応策について検討する。
No	評価基準	社会連携・社会貢献
9	中期目標	修了生がどのように社会と接点を持ち、貢献しているのかを常に確認するとともに、研究科が地域社会と連携し、貢献するための方策を検討し実践する。
	年度目標	研究科としての研究交流促進、社会連携の在り方について検討する。
	達成指標	左記の課題の検討を行う。臨床心理学専攻では、修了生と在学生による臨床心理の会を継続発展させ、年次大会の内容のさらなる充実を通して専門性の維持を図る。
【重点目標】		

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。



中期目標達成に向けた最終年度として、福祉社会専攻と臨床心理学専攻におけるカリキュラム改革について、研究科の理念と目的に沿って、効果と課題を検証する。

**【目標を達成するための施策等】**

福祉社会専攻ではカリキュラム改革の効果と課題について、専攻会議において議論する。臨床心理学専攻においては、公認心理師指定科目を含んだカリキュラムの効果と課題について専攻会議で議論する。両専攻の議論のまとめを、教授会で確認する。

**【2021年度中期目標・年度目標に関する大学評価】**

人間社会研究科では、中期目標、年度目標ともに現状分析を踏まえており、概ね妥当である。中期目標達成に向けた最終年度であることから、福祉社会専攻と臨床心理学専攻におけるカリキュラム改革について、研究科の理念と目的に沿って効果と課題を検証し、専攻会議において議論を深めることが期待される。

2021年度も引き続き Covid-19 の影響が見込まれることから、内部質保証を年度当初と年度末だけでなく中間段階でも行うことを改めて達成指標に掲げたことは評価したい。また、人間福祉専攻における休学明け院生への指導方針の確認と共有が研究指導の充実につながることも期待したい。

**【大学評価総評】**

人間社会研究科では、修士課程・博士課程ともにコースワークとリサーチワークが適切に組み合わせられており、学位取得までのロードマップや研究指導計画が学生に明示され、段階的かつ集団的な指導体制が整えられている。

コロナ禍における実習先の確保のための実習機関との密度の高い連携など、引き続きイレギュラーな対応が求められる状況が続くと考えられるが、研究指導の質保証に引き続き取り組んでいただきたい。

福祉社会専攻においては市ヶ谷開講と土曜開講で必要なコースワークを取得できるように改訂が行われるなど、入学者確保に向けた対策が進められており、引き続き努力を求めたい。外国人留学生への就職支援の充実や人間福祉専攻における休学明け学生への指導方針の確認、研究交流会の実施など、課題として認識されている事項に対する着実な取り組みを期待したい。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。